

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第93回 2026年2月)



食いしん防は甘いものなら何でも好きだが、今の時期になると食べたくなるのが、あったかーいぜんざい（おしるこ）である。

さて、ぜんざいは大きく分けて2種類ある。餅が入ったのと、白玉が入ったのだ。どちらも美味しいが、食いしん防は餅入りが好みだ。焼きめがついた長方形の餅が2枚入ってるのがベスト。しかしそういう店は意外と少ないのである。



女子が多く入るおしゃれな甘味処は、たいてい白玉ぜんざいが出てくる。餅入りが食べられるのは、年配客がメインの昔ながらの店であることが多い。入口に『ぜんざい』と書かれた暖簾が下がっているようなところだ。

店で食べるぜんざいは、けっこう高価だ。500 円以下はまずなく、800 円前後が中心値だ。1,200 円を超える高級品もある。つまり、食事をするのとほとんど変わらない値段がするのだ。

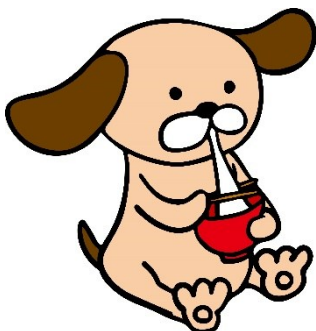
高価なぜんざいは、使われている小豆の粒が大きい。しかもたっぷし（©東海林さだお）入っている。リーズナブルなのは、当然その反対だ。潰れたような小粒がちょろちょろっとしか入ってないぜんざいを食べてると、わびしい気持ちになる。でも、ビシッと甘みが効いていると、お腹も心もほっこりする。

先日、清水の舞台から飛び降りる覚悟で、1,200 円以上する『抹茶ぜんざい』を食べてみた。ちゃんと長方形の焼餅が2枚入っていた。小豆は太っていて、たっぷし（©東海林さだお）入っていた。濃い抹茶をかけていただくのだが、甘いぜんざいと苦味のある抹茶の取り合わせも、なかなかのものだった。

しかしあーた、ぜんざいが 1,200 円超ですよ。それだけ払えばがっつり肉が入った定食が食べれるじゃないですか。そりゃ、原料代が安くないのはわかるけどさ。

考えてみたら、ケーキも高い。コーヒー付きで頼むと、やっぱり 1,000 円前後する。でも美味しいんだからイイじゃない！ 毎日ってわけにはいかないけれど、たまの贅沢は人生に必要。本当にたまだけだね。

美味しい（しかも安い）ぜんざいの店を知っていたら、食いしん防に教えてね！



TOPICS

☆防災ネットワークで倒壊家屋からの救出訓練

今年度、こと防活動の締めくくりとして、『倒壊家屋からの救出および負傷者救護・搬送』についての研修が、コミセンで行われた。当日は雪が降る悪天候だったにもかかわらず、各自治会の防災推進員 16 名（代理も含む）と市消防団湖東方面隊から 11 名が、雪をも溶かす熱意で参加した。愛知消防署員による熱血指導のもと、食いしん防災部会も含めた 30 名が、およそ 2 時間の研修に取り組んだ。

ものすごくためになる内容だったが、特に参考になるポイントを紹介してみよう。

① 救出活動は、できるだけ複数の人数で行う。

1 人で行うのは危険なので、人手を集めるのがよい。また、作業に加わらず、全体を見て指示を出す役も重要。作業をする人は手もとだけに注意が向くので、他の危険に気づきにくいのだ。

② 負傷者に声をかける。

倒壊した家屋などに挟まれて動けない人を助ける時には、**どういう作業を行っているか**など、声をかける。「上のものをどけますよ」「挟まっていたところは動かせますか?」「痛くありませんか?」など。

③ 隙間ができれば、支えを入れる。

負傷者の上に乗っているもので、手で動かせないものは、ジャッキやロープを使って持ち上げる。持ち上げて少しでも隙間ができれば、そこに木切れやブロックなどをかませて支えにする。落下して下の人を傷つけたりしないためだ。

他にも耳寄りな知識をいっぱい教えていただけた。聞くだけでなく、実際に体験することで、より身につく。

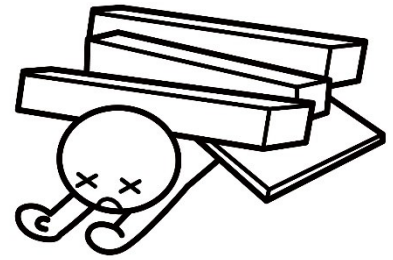
こと防では、**今後も同様の研修を続けて**、どの自治会にも負傷者救出法の知識を持つ人が複数いるようにするつもりである。



今後の活動予定

年度内は今のところ予定なし

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



勝手にQ&Aコーナー

Q：倒壊家屋からの救出に必要な専用道具が、身近にありません。自治会で買っておくべきでしょうか？

A：ジャッキやバール、頑丈なロープなどを備えておけば便利ですが、急を要する場合は、近くにあって使えそうな物は何でも使います。車に積んであるジャッキや、スコップも便利。他にガレキの中にある適当な物も利用できます。



Q：近江八幡にある「たねや日牟禮庵」のぜんざいが美味しいですよ。つぶら餅という丸っこい餅が入ってます。

A：さっそくの情報提供ありがとう！ 天下のたねやだから絶対にハズレなしだね。想像しただけでヨダレが……



楽しい質問、お待ちしております！

（文責：こじまっちょ）

